

5

枚方市駅周辺再整備事業について

市駅
周辺

▶市庁舎を府有地へ移転する計画の見直しを求めています！

議会質疑・要望のポイント

奥野の考え

■④⑤街区の再整備のあり方について

枚方市駅周辺再整備事業は、非常に広い区域を対象としています。そして今、議会で特に問題となっているのが、枚方市役所周辺（④街区）と北河内府民センター周辺（⑤街区）の再整備のあり方です。

④⑤街区の現状について、以下に記載します。

▶④街区の現状

広大な市有地に老朽化した多数の公共建築物があります。老朽化した枚方市役所庁舎（本館・別館）の建替えは、大規模災害に備えるため急務の課題です。市民会館（本館・大ホール棟）は、総合文化芸術センターの開館によってすでに廃止。保健所は現・保健センターへ移転する予定です。

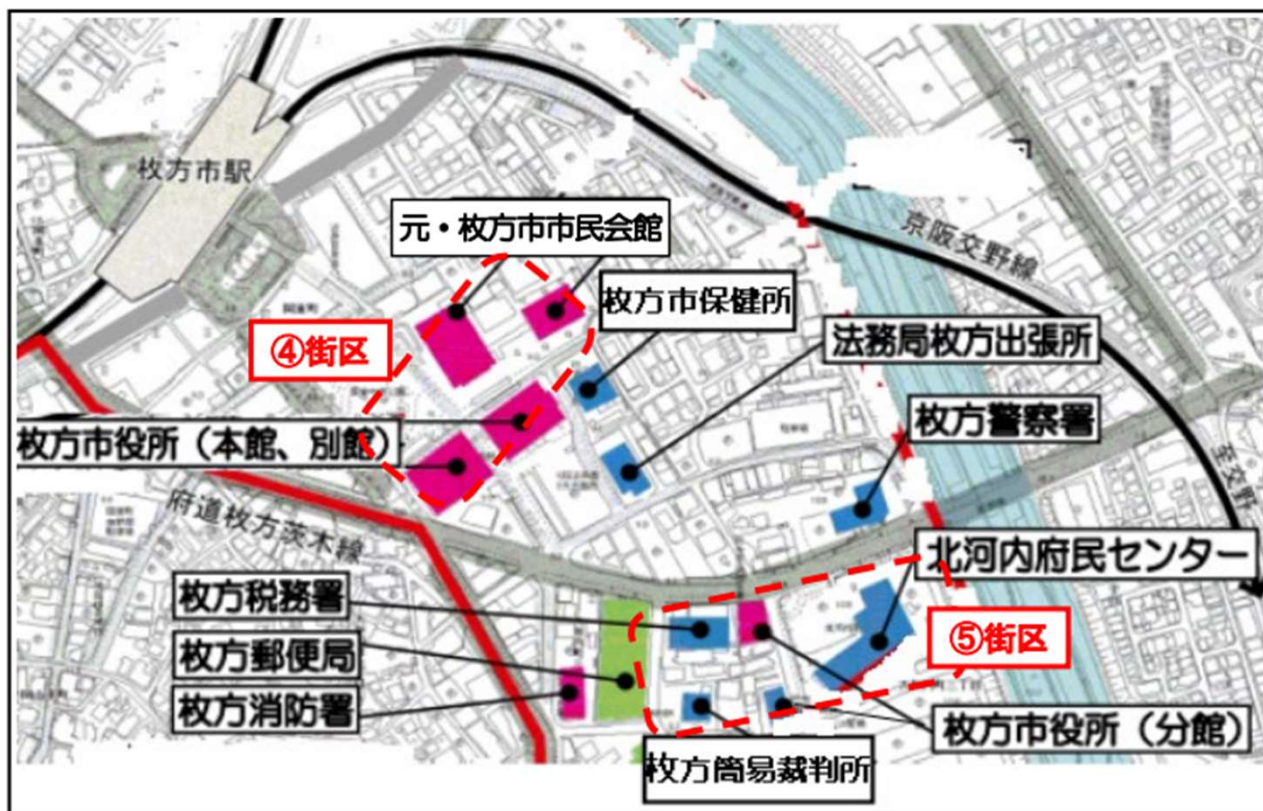
▶⑤街区の現状

北河内府民センターは枚方市駅に直結する再開発区域に移転が決定しています。



- ④⑤街区における最も大切な公共課題は、市民会館・市役所庁舎・国や府の庁舎・枚方消防署等の老朽化した公共建築物の建替え。大規模災害に備え、それらを着実に展開することこそ重視すべきです。
- 市役所を⑤街区に移転し、空いた土地を売却して民間開発を誘導する区画整理事業（現時点で総額 約320億円・市負担額 約250億円）を行っても、次ページの図のような問題だらけです。
- また、⑤街区には5,000人規模のアリーナ整備案（建設費用 約90億円）も検討されています。
- しかし、9月議会では市が議会を軽視して強引に提案した市役所の移転条例案が必要賛成数を得られず否決されました。
- 私は、現行隣接地（④街区）での市役所の建替えを基本とする計画への見直しを求めています。

【現在の枚方市役所・北河内府民センター周辺】



市役所を移転し、タワマン等の建設に市有地を売却 ～ 未来に問題を残す税の無駄づかい計画～

総事業費 約320億円



枚方市駅

④街区の市有地

交換

⑤街区の府有地

市の計画は、市有地で市役所庁舎の建て替えを行わず、土地区画整理事業で大阪府の土地を交換取得して行おうとするもの。そのため膨大な事業費が必要となっている。

デッキの整備

駅から⑤街区へつなぐデッキを整備。数億円？ 10 数億円？の費用。

道路整備

駅前空間を分断し、渋滞の危険性が高い道路を整備。

公園・広場の拡大

⑤街区へつなげる「緑の景観軸」を作るとして、9月にはコンビニ・商業ビルの移転を計画。約20億円の事業費が追加された。

複合施設(生活サポート拠点)

市有地を交換・売却し、開発業者に建設させる施設。施設内容を提案させて選考。開発事業者は将来管理が困難になる分譲タワマン・マンション合築を希望。市も容認する考え。

新庁舎(市)+アリーナ？

府有地を交換取得して市役所新庁舎を移転・新築。アリーナ（5,000人規模）等の合築も検討。

新庁舎・
駐車場等

淀川洪水では、
④街区と同様の浸水域

▶ [2022年9月全員協議会]

遠ざかる一方の実現可能性、高まる一方の老朽公共施設の大規模災害対応の即時具体化、深まる一方の理由の薄弱な現時点での市役所移転条例改正強行への疑念。



▶ [2022年9月／一般質問]

今、枚方市民にとって、④⑤街区の公共用地を活用して再整備しなければならない公共課題は何であるのか。大切なのは、大規模災害に「備える」ということ。



▶ [2022年9月／移転条例否決]

市民の利益にならない市庁舎移転。9月26日、18対12で特別多数議決である市役所の位置を定める条例の改正は否決。



▶ [2022年6月／一般質問]

タワマンへの公共用地売却や市庁舎・アリーナ合築整備などを考える前に大規模災害対策等の公共課題を最も早く解決できる道を考えるべき。



▶ [2021年7月全員協議会]

落下物防護ネットが設置されている市民会館大ホール棟や市民会館本館の廃止後の取り扱いや、解体・造成に係る事業手法について。



(録画映像はこちらから→)

